

令和八年度 山梨予備校 入学式 あいさつ

皆さん、ようこそ山梨予備校に入学してくださいました。教職員一同、皆さんを心から歓迎いたします。できれば予備校には入学したくなかった…、という眩しさも無視して皆さんを歓迎いたします。本校で志望大学合格を目指すと共に、これからの人生を後押しするような受験勉強に打ち込んでほしいと思うからです。

受験が終わればすぐ忘れてしまう、だから受験勉強は役に立たない…、そういう声を聞きます。しかしそれは違うと思います。役に立つとか立たないではなく、受験勉強で自分の内面の世界が広がるのです。学んだ具体的な内容は忘れても、内面の世界の広がりとして残り、人生の困難に負けない自分が築かれるのです。

倫理の教科書で、古代ギリシアの自然哲学者タレスが「万物の根源は水である」と説いたことを学びます。自然哲学者が研究の対象としたのは現代の自然科学が対象とする自然ではなく、人間もまたその中にその一部として含まれる世界全体です。世界は全て生きている、そういう世界観の中から発せられた言葉です。

「万物の根源は水である。よし覚えたぞ！次っ」。こういう勉強は忘れてしまえばそれっきりです。受験勉強は一人孤立して机に向かうのではありません。学問を築き上げてきた先人たちとコミュニケーションをとっているのです。タレスって誰すか？などとダジャレを言うのもいいですが(そう言って喜んでいるのは私ですけど)、タレスさんと正面から向き合いたいものです。机の上に無限の世界が広がっていくと思います。

模試の偏差値を上げたい、という目標より、わかったつもりのことを改めて見詰め直し、納得いくようにしたい、そういう目標のほうがいいと思います。日々の勉強の過程を大切にしてほしい、ということです。結果だけを目指すと、「万物の根源は水である」を覚えておしまい、広い世界に出るチャンス逃します。

さて、私の遠い昔の話です。〇〇西高校でたまたま三年間同じクラスの友達がいます。たまたま同じ大学・学部を受験し、彼は合格、私は不合格でした。私は予備校に通い、翌年入学しましたが、先に入学した彼は留年し、卒業は一緒でした。この話で、予備校での時間は取り戻せると申し上げたいのではありません。

人生を道に譬えるところから、人より先を歩くとか、人に遅れて歩くとかのイメージが生まれます。しかしその道は目に見えません。従って先を歩くとか、遅れて歩くとかは全く無意味な言葉です。道ではなく、毎日の生活こそが人生です。大学に入るのがいつなのか、など気にする必要は全くない、本当にそう思います。

私は予備校は必要に迫られて仕方なく行く所と観念して通いましたが、その後の人生はその予備校時代の記憶に支えられてきたと感じています。翌年合格できた、ということとは関係なく感じてます。仕方なく行ったのに、いつの間にかかけがえのない大切な記憶となっていた、これこそ人生の醍醐味、と思います。

皆さん、山梨予備校での授業が始まります。授業中だけでなく、静かな自習室においても、「ああ、そういうことなのか…」という皆さんの声や、抑えても抑えてもつい漏れてしまう日々が始まります。来春、山梨予備校に通って本当に良かったとしみじみと呟いてくださることを願いながら入学式におけるあいさつといたします。皆さんの健闘を心からお祈り申し上げます。ありがとうございました。

令和八年四月十三日

山梨予備校 校長 斉木邦彦